

セボネ

タガヤ ランティア ネットワーク
Setagaya Volunteer Network

特集

P.2-5

村瀬幸浩先生が話す
～人間の「性」は、人間の「生」～



まちの市民力

P.6 ～ジェンダー視点の起業支援～ 一般社団法人イヴの木



せたがやキラリ人

P.7 ～積極的に聴くことを味わう～ 山本 多賀子さん



おたがいさまビュー

P.8-P.11

2025 年度 防災シンポジウム「災害時のトイレ問題を考える」参加者募集
ボランティア募集、講座・イベント・その他お知らせ

村瀬幸浩先生が話す 「人間の『性』は、人間の『生』」

取材／星野 弥生（セボネ編集委員）



せたがやチャイルドライン受け手養成公開講座にて、最後のご登壇される村瀬先生

世田谷ボランティア協会主催事業である「せたがやチャイルドライン」の「受け手養成公開講座」の講師を10年間担当してくださった性教育研究者の村瀬幸浩先生が今回でお役目を終えられることになりました。先生の「性」のお話は、幼児の性教育から、思春期、そしてシルバー世代の性のテーマまで、一貫して誰しもの「生」につながるものです。

以下、最後の講座で伝えられたお話の一部を多くの方と共有したいと思います。

情けない

日本のジェンダー・ギャップ

日本のジェンダー・ギャップ指数は相変わらず世界で118位。『夫婦別姓』も引き延ばされそうです。日本では98%の夫婦が女性の姓を変えています。世界では姓を変えないのが常識です。結婚しているから同居しているとは限

らないのに、選挙の時の投票用紙は夫の名前で妻の分も送られてくる。個人に送るのが当たり前です。そういうことを許してきた根幹に、男中心の家制度があります。戦後の新憲法にも「男女平等」は頑として入れなかった。「男女雇用機会均等法」は機会を均等にすべし、というだけの話で、真の「男女平等」とは言えません。

女子の「性」についての偏見、誤解

国連からも日本が男女平等を進めるようにという勧告が出されていますが、まさにそこに日本の「性の問題」があります。日本の夫婦に何故セックスストレスが多いのか。男が仕掛けて、女が嫌といえない状況が続く、女性の「快楽」はいやらしいものとされてきました。学校で女子だけが「月経」についてのスライドを見せられ、男子は帰るかサッ

カーをしているのが日本の性教育でした。男が性を学ぶのは工口本だけ、というのも日本の男女の関係の今日にいたる悲劇です。しかし、女性の働く機会も増えてきました。離婚は女性の方から言い出すことが多い。二重の負担を負っても、今の夫と暮らし続けることを考えたらずの方がいいと。

マスターベーションは男がするものと思われていました。日本語では手淫という言葉をあてはめますが、まったく適切でないと思つて私は「セルフ・プレジャー」という言葉を20年前から使つてきました。女性のセルフ・プレジャーを位置づけたいと思つています。「産む」ための性ではなく、「快楽」の性を。かつて13歳でセックスしてよかったのは、女子は妊娠・出産のためで、兵隊、労働力を作りだすために早く産ませようと奨励してきたからです。

男女の性的役割分担に異議

男女の性への刷り込みにははっきりとノーを言いたい。男は食わせていかななくてはならず、女は子

産みと子育てと夫の快楽への奉仕、とこれも男女の役割分担です。私は大学で出会った妻と23歳で結婚しました。6人兄弟の末っ子でしたが、長兄が最初に訊いたのは「お前、食わせていけるのか?」「食わせていけないから共働きでやる」と答えました。今でも男にとつて結婚はプレッシャーになつていて、踏み切れず、晩婚、あるいは生涯結婚しない人が増えていきます。寂しい人生です。かつて男は一切裁縫も料理もしなかった。

1980年に「男女差別撤廃条約」を締結するにあたり、国連の勧告により、日本にある不平等な差別を変えなければなりません。1994年に「高校における家庭科の男女共修」が定められ、男も料理をするきっかけとなったのはいいことでした。

結婚したら幸せなのか・・・

娘の結婚式に出た時の私のスピーチはこんなものでした。「結婚したら一心同体で生きていく、とよく祝辞などで言われますが、それはウソです。結婚イコール幸

せなんてありません。コミュニケーションを取らなければ結婚生活は続けられない」と。娘からはスピーチ、よかったよ」と言われてホッとした。結婚のウソ、幻想は結婚前にわかってなくてはいいけません。結婚はゴールではなくスタート。ここから価値ある苦勞が始まります。

大学で教えていた時に結婚というテーマを扱いました。結婚はしなくてはならないことではなく、子どもも産まなくてはならないものではない。選択の問題です。幻想を持つてはいけません。道が開けていくことも、破綻することもある、取り組みがいのある課題です。両親が別れると子どもが不幸になるというのもウソです。晩飯も一緒に食わず、笑顔もなくグチばかりなら別れた方がいい。子どもはそういう影響を受けて育っていきます。

性教育は 励ましを与えるものになるべき

性教育ももっと子どもや青年の現状に合うように、励ましを



出版社: KADOKAWA

初潮から数年間、性への関心が強まるにつれ、学習するテーマも増えてきますが、日本の性教育はなっています。学習指導要領に「歯止め規定」があり、避妊は教えないのです。欧米では当たり前のピルが最も有効なのに、男たちの反対で日本では認められてこなかった。

時代の変化の中で教師たちも「性」を教えるべきです。教員養成課程で取り組む必要が

与えるものでなくてはいけないでしょう。「スポンサーとメイド付きの家」からは「自立のちから」は生まれません。私は妻が亡くなる前から食事の準備など家のことをやってきました。亡くなった後のショックは、メシを作ることではなく、一緒に食べる相手がいないことです。病院でも一緒に食べていたので苦痛ではなかったですが、作っても一緒に食べる相手がいないのは、何のために生きていくのかというむなしい気がします。妻を亡くした男たちは短命が多く、無残だなあと思います。

男女共修家庭科を受けるようになってよかったのは、今40歳前半

思春期の性教育の問題

の男たちは料理をしているというところ。青年の時から能力を身に付けなくてはなりません。家庭教育の役割も変わってきています。母親大会で話をしてくれ、と頼まれた時に、「子どもをどう育てるか、夫婦二人になった時にどうするか」という話なら語ってもいいと言ったことが受け入れられ、いつもより参加者が多かったと。大人たちも悩んでいるのですね。

あります。「予期しない妊娠」「性感染症」は重大な問題です。女性の性器は粘膜で出来ているので性感染症にかかりやすいということ。男は知らなくてははいけない。女子はまず自分の健康を考え、相手の内面、人格に注目してほしい。コンドームがない時には、セルフ・プレジャーを。

思春期の子どもの付き合い方

幼児や小学生に「性」について問われたらどうしたらいいのか、それに答えたのが35万部売れた「おうち性教育はじめます」(KADOKAWA)です。性教育は教え込むことだと思っている親もいますが、訊かれたら子どもの好奇心、質問、疑問に答えるのが親の役割です。思春期になると子どもは質問をしません。子どもが悩み、傷つき、相談された時にアドバイスをするしかないのです。

予期しない妊娠をした時に親はどうするのか?ということも勇氣を持って書きました。セックスをし、妊娠に出会うこともある。ひどいことをしたとは思ってほしく

ない。人間にはいくつになっても失敗することはあると、「思春期の性」に書きました。困った時に助けるのが親だと。人工中絶は日本では認められていますから、違法行為ではないのです。脅すことによって性から遠ざけようとするのは日本の悪いところですよ。私がやりたいのは「幸せに近づく性教育」。不幸にならないための性教育ではありません。

思春期の子どもとは、親子であつても他者だということを前提に付き合います。「子どもだから言うことをきけ」というのは反発をくらう。子どもは相当考えるちからをもっているのです、批

判はあくまでも相手を尊重した上で、「どうしてもわかってほしい」ことを伝えてほしい。兄弟や、親の友達の子どもに比べたりするのは、子どもには「かんけいねーだろ」ということです。なるべく早く家から出る方がいいのです。子どもと思春期は親の更年期とほぼ重なります。上り坂と下り坂が同居する時期で、ギクシャクするの当たり前です。

* * *

村瀬先生は、2024年3月に58年の間、人生を共有されてきたお連れ合いの敦子さんを亡くされました。一年後に出版されたのが

生涯のパートナーシップ

支えられて、ひとり生きる

村瀬幸浩 編著



出版社：エイデル研究所

「生涯のパートナーシップ」。そこには、女性の「性」について何も学んでこなかった自分が、結婚後3年経ってから勉強を始め、妻との関係を紡いでいった努力や意志が描かれています。

「月経」についてまともな知識や理解もなく、月経に伴う心身の不調を冷ややかに見つめる程度

だった自分が、「きちんと勉強しないと妻との関係がうまくいかない」と気が付き、それが「性教育」へと足をふみこむきっかけになった。これを中高生の時に学んでいたら、という思いから、当時、保健体育の先生をしていた和光高校で「性」を教えることを提案し、それが84歳にいたるまでの「性教育」への道に連なっています。

とりわけ、これまであまり取り上げられることのなかった「男子の性教育」は、生涯にわたる男女の対等で平等な関係にとつて、必要不可欠なものであると、力をこめて語られます。セクハラ発言がまかり通り、性的同意のない性暴力が頻繁に起きる背景には、きちんと「性」を教えてこなかったという歴史があります。

「性」はまさに大切な「人権」の問題であり、だからこそ、生涯のどの場面でも「生」に密接にかかわるものであること、誰々のためではなく、「あなた自身」のことを考え、幸せに生きるための大切ながかりであることを、先生のお話からたくさん教えていただいた気がしています。

～ジェンダー視点の起業支援～ 一般社団法人イヴの木



「ジェンダー×防災」をテーマにミーティングを開催

一般社団法人イヴの木は、女性起業家たちの居場所として、ジェンダー視点で起業支援をする中間支援団体です。2019年に任意団体として設立、2021年に社団法人化しました。今回、団体設立に関わった代表理事の鈴木景子さんにお話を伺いました。

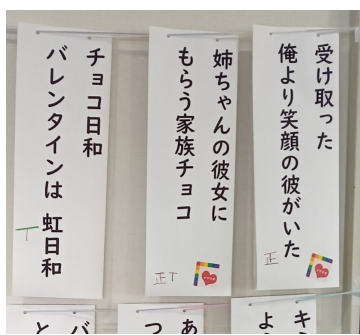
鈴木さんは元々はシナリオライターを目指して活動している中、男女共同参画センター・らぷらすの存在を知り、起業ミニメッセに会場。それをきっかけに誘われた女性起業家交流会に参加するようになり、参加していた起業家たちと意気投合し、一緒に団体の設立をしました。団体名の由来はイヴという女性名に被せて「女性が活躍する前夜」という意味だとか。

法人化後、2023年に日頃のジェンダー意識について語り合う「世田谷版男女共同参画タウンミーティング」を世田谷区より受託して区内各地で展開していく一方、自主事業としても、性別に関係なくみんなでバレンタインを楽しもうという「レインボーバレンタイン&ホワイトデー」、ジェンダー視点を取り入れた「新しい防災・減災」、イヴの木推し本「ブックトークライブ」、健康をテーマにした「オシャレにウォーク&トーク」など、メンバー（現在7名）の得意なものを次々と企画し開催しています。モットーとしては、「イヴの木では営利な活動はしない、誰もやらないことをやる」だそう。

団体の今後について、鈴木さんは「ジェンダー視点のまちづくりをやっていききたい」と話します。今までの取り組みはいわば面づくりで、これから目指すものはサッカーボールのような事業体。つまり、誰かが頂点に立って指導するのではなく、常にメンバーそれぞれがプロジェクトを担当すること

で頂点が入れ替わり、まちづくりのフィールドをみんなで転がしていくことを目指しているのだとか。

「みんな仲良く一緒に楽しく、垣根をなくしていくことで、世田谷のウェルビーイングを豊かにしたい」。鈴木さんは、中間支援団体として、地域で何かやりたい人のアイデアとやる気の後押しをしたい、既に活動している人も困ったときに活動を支えることができると言っています。自分も地域で何かやってみたいという方は、ぜひ一度鈴木さんらイヴの木のみなさんとお話されてみてはいかがでしょうか？



【レインボーバレンタイン&ホワイトデー】企画のひとつの川柳。
「女性から男性だけでなく、すべての人がバレンタインを楽しむために」がテーマ。



人キラリがたせ

世田谷区を中心に活躍する
キラリと光る素敵な方がたをご紹介します
取材・近藤 浩紀・小畑 泉

山本多賀子さんは、50年以上にわたり「人の話を聴く」という姿勢を軸に、多様な現場で支援に携わってきました。当協会のせたがやチャイルドラインにも長年ボランティアとして携わってくださいました。今年度でご勇退されるため、山本さんのこれまでをインタビューさせていただきました。

山本さんは、高校を卒業するころに、自分自身のできることは何か、自分が持っているものを誰かに活かせられないかと考えて、社会福祉を学ぼうと、関西学院大学に進学し、在学中に、点訳サークルでの活動を通じて視力障害のある人と出会いました。大阪府立身体障害者福祉センターでの実習を経て、卒業後は東京都心身障害者



～積極的に聴くことを味わう～

山本 多賀子さん
やまもと たかこ

福祉センターへ福祉指導職として就職。訓練中心から生活主体へとリハビリテーションが大きく転換していく時代に、17年間にわたり障害当事者の生活支援に取り組みました。「美濃郡都政になって大きく福祉が進んだんです。障害がある方たちの声をよく聴く都知事でした。手話講習会も、美濃郡知事と障害者団体の対話集会の中心で始めました。」

山本さんも聴覚障害のある人とのコミュニケーションをとるために手話を学びたいと思い、手話講習会を受講しました。手話通訳や手話講習会のテキスト制作など、専門性を生かした幅広い役割を担っていました。

その後、世田谷区職員となり、世田谷区立総合福祉センターの立ち上げに関わり、相談部門の整備や難病者支援に取り組み、地域に根ざした福祉の基盤づくりに寄与されました。その後、障害福祉、介護保険の分野で勤務し、定年後は、「社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会」で相談や研修の仕事

をしてきました。

一方で、ボランティア活動として「東京いのちの電話」にも長年関わっていて、研修担当を務め、相談員の養成や対人援助の向上に尽力。その経験は、「せたがやチャイルドライン」の立ち上げにもつながり、全国各地のチャイルドライン設立期における研修など重要な役割を果たしました。せたがやチャイルドラインの関わりは、当時、世田谷ボランティア協会理事長でもあり、チャイルドライン支援センター代表理事でもあった牟田悌三さんから声がかかったそうです。全国のチャイルドラインの基盤づくりに関わった功績はとて大きいです。

山本さんは「大変だったけどおもしろい時代だったし、魅力的な方々がたくさんいました」と懐かしむように語りました。「積極的に聴き、聴いた言葉を味わい、丁寧に返す」という姿勢で、半世紀にわたり人々の声に寄り添い続けた山本さんの優しい笑顔がとても印象的でした。

車いす利用者の付き添いにご協力いただける方を募集

世田谷 2 丁目にお住いの 70 代男性が出かける際に車いすを押してくださる方を探しています。男性は読書や音楽鑑賞、人と会話することが好きな方です。お出掛けに付き添っていただける方のご応募をお待ちしています。自宅からスーパーでの買い物や図書館経由で帰宅というルートです。詳細はお問い合わせください。

- 曜日／水曜か金曜 14 時～16 時（月に 1～2 回）
- 交通／ご自宅は東急世田谷線上町駅下車徒歩約 7 分
- 問合せ／北沢ボランティアビューロー 小島

TEL：03-3420-2520 メール：kitabora@otagaisama.or.jp

小学 1 年生の男の子の通学付き添いボランティア募集

発達がゆっくりな外国籍の小学 1 年生の男の子が、少し離れた小学校へ通うことになりました。ご両親は登校時間より前に仕事に出てしまうため、男の子を送ることができません。お母さんが休みの木曜日とお父さんが休みになる雨の日以外の朝、学校まで付き添ってくださる方を募集します。人懐っこくて可愛い男の子です。詳細はお問い合わせください。

- 曜日／月、火、水、金曜日の 7 時 45 分から 30 分程度。うち週 1 回から応相談
- 場所／喜多見 4 丁目ご自宅→バス（次大夫堀公園前→成城町）→明正小学校
- 条件／バス代支給。雨の日の活動はありません。
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室 担当：花輪

TEL：03-6411-4007 メール：kinutabora@otagaisama.or.jp

障害のある男性の車いす移動補助ボランティアを募集

船橋にお住まいの身体・知的障害のある 30 代の男性が、日中活動からご自宅へ帰る時の迎え（自宅近くのバス停～ご自宅）をしてくださる方を探しています。ご自宅までは数分ですが車いすを押していただくことになります。大きな車いすのため男性を希望します。詳細はお問合せください。

- 曜日／毎週火曜日（16 時 35 分から 10 分程度）
- 場所／船橋 6 丁目 ご自宅近くのバス停～ご自宅
- 条件／交通費をお支払いします。男性希望。
- 募集人数／2～3 人
- 問合せ／相談室にじのこ 担当：土屋

TEL：03-5314-9588 メール：tsuchiya@nijinoko.jp

世田谷区いずみ学級（知的障害者の青年学級）でボランティアしませんか？

いずみ学級は、知的障害のある人たちと、彼らを支え共に学び、活動するボランティアにより運営する学級です。一年を通してレクリエーションやクラブ活動、バスハイク、クリスマス会、ミーティングなどの活動をしています。学生や社会人、主婦など、老若男女問わずさまざまな人たちがボランティアに参加しています。資格等は不要です。知的障害のある人たちと関わることに関心のある方なら、誰でも参加できます。

ボランティアの募集は年間を通じて行っています。詳細は世田谷区公式ホームページから、ページ ID に 3587 を入力してご覧ください。

- 日時／月 1～2 回、日曜の 9 時 50 分～15 時 30 分
- 場所／世田谷中学校、八幡中学校、芦花中学校の 3 ヶ所で実施（外出行事もあります）
- 交通／世田谷中学校：東急世田谷線若林駅徒歩 10 分
八幡中学校：東急大井町線九品仏駅徒歩 8 分
芦花中学校：京王線芦花公園駅徒歩 8 分
- 問合せ／世田谷区教育委員会事務局生涯学習課 いずみ学級担当

TEL：03-3429-4259

「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

中学 2 年生男子生徒の付き添いボランティア募集

知的障害がある中学 2 年生の男の子に付き添って、デイスサービスまで送ってくださる方を募集しています。学校の送迎バスの停留所で男の子を迎え、歩いて 25 分ほどのデイスサービスまで行きます。男の子は歩くのが速いので、体力に自信のある方（できれば男性）が希望です。詳しくはお問い合わせください。

- 内容／毎週金曜日 15 時 50 分にバス停（上祖師谷 4 丁目）で出迎え→徒歩でデイスサービス（給田 3 丁目）まで。徒歩約 25 分
- 条件／男性希望。報酬 1 回につき 1,200 円
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333
メール：karasubora@otagaisama.or.jp

車いすでの移動付き添いボランティア募集

歩行困難の男性（70 代）が車いすで外出する際、付き添ってくれるボランティアを募集しています。自宅近辺（上北沢）での用事を済ませるため。また、通院（小田急線梅ヶ丘駅）のための外出です。難しい操作ではありませんが、電動車いすが重いため、扱いに慣れた方だと助かります。

- 内容／①手押しの車いすで、梅ヶ丘駅すぐの整形外科から自宅まで。主にタクシーに乗る際の介助（主に金曜日夕方 5 ～ 6 時頃、2 か月に 1 回程度）
②電動車いすで、自宅から上北沢駅近くの理容室までの往復（片道 1km 強）
（平日または週末の日中。特に踏切での介助をお願いします）
③電動車いすで、自宅近辺の歯科医院までの往復（片道 1km ほど）
（平日または週末の日中。特に踏切での介助をお願いします）
- 日時／不定期
- 場所／自宅は上北沢 1 丁目（最寄り駅は京王線桜上水駅）
- 条件／車いす介助に慣れた方希望。報酬 1 時間 1,200 円、別途交通費支給
- 問合せ／烏山ボランティアビューロー TEL：03-6909-0333

【急募】NPO フリースクール僕んち：有償スタッフおよびボランティアの募集

学校以外の、子どもの自由な学び・育ちの場。不登校を選んでいる子どもの選択肢のひとつ。自分らしく、伸び伸びと過ごせる居場所「僕んち」では常に、子どもや若者と寄り添い、「元氣や不元氣」を分かち合え、一緒に何かを産み出せる人材を求めています。具体的には、ものづくり・料理・ゲーム・多様な学び・アウトドア・合宿・キャンプなどなど、多岐にわたります。資格や肩書は要りません。あなたらしい魅力で「僕んち」を手伝ってくださる方を募集しています。ご興味のある方のご連絡をお待ちしています！

スタッフ候補として興味をお持ち方：採用を前提としたインターン生になっていただくこともできます。詳細はお問い合わせください。

- 日時／火曜・金曜の 10 時～17 時
- 場所／フリースクール僕んち（代田 4-3 2-1 7 サンハイツ B）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅徒歩約 10 分
- 問合せ／フリースクール僕んち 担当：高橋
TEL：090-3905-8124 メール：bokunchi.fs@gmail.com

北沢ボランティアビューロー改修工事に伴う長期休館のお知らせ

北沢ボランティアビューローの改修工事は順調に進んでいます。仮事務所では、会議室の貸出を休止していますが、他の窓口業務は行っています。

- 仮事務所での執務／2026 年 3 月まで（予定）
- 場所／世田谷区梅丘分庁舎（松原 6-3-5）
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅北口下車徒歩 2 分
- 開館日と時間／月～金曜日 10 時～17 時
- TEL：03-3420-2520 FAX：03-3706-2854 メール：kitabara@otagaisama.or.jp

上記掲載記事は 12 月 14 日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

もっと語ろう不登校 part.307

これまで 31 年間にわたって、さまざまな方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お問い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

- 日時／1月10日(土) 14時～
- 場所／NPO フリースクール僕んち(世田谷区代田 4-32-17)、またはZOOM会議
- 交通／小田急線梅ヶ丘駅徒歩約 10 分
- 問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もっと語ろう不登校」担当 高橋
TEL: 090-3905-8124 メール: fsbttoru@yahoo.co.jp

2025 年度 防災シンポジウム「災害時のトイレ問題を考える」

～トイレだけは我慢できない！～ 一緒に考えましょう、災害時のトイレのこと。
今回のシンポジウムは「災害時のトイレ問題を考える」と題し、マンホールトイレと携帯トイレのスペシャリストをお招きし、災害時のトイレについて一緒に考えます。

- 日時／1月12日(月・祝) 13時30分～15時30分 ※13時開場
- 会場／北沢タウンホール(北沢 2-8-18)
- 交通／小田急線・京王井の頭線 下北沢駅下車徒歩約5分、または小田急バス(下61) 北沢タウンホール下車すぐ
- 参加費／無料
- 定員／200名(先着)
- 申込／1月10日(土)までに、右記の二次元コードを読み込むか、
せたがや災害ボランティアセンターホームページ内の応募フォームからお申込みください。
※手話通訳付 ※ひととき保育(先着5名)
- 問合せ／せたがや災害ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101
メール: saigai-info@otagaisama.or.jp



「セボネ」は皆様の声を集めて制作しています。ボランティア募集、イベントなど情報をお寄せください。ホームページから情報を投稿できます。

リサイクル市(バザー) 提供品受付のお知らせ@世田谷ボランティアセンター

世田谷ボランティア協会では、みなさまからご提供いただいた品物をリサイクル市(バザー)で販売し、その売上金を世田谷ボランティア協会が行うボランティア活動推進のための、さまざまなプログラム運営費用にあてさせていただきます。ご協力をお願いします。

- 回収日時／1月10日(土)、2月7日(土) 10時～17時30分
- 回収対象／衣類、帽子、カバン、ベルト、ハンカチ、アクセサリ、靴下(未使用)、生活雑貨、おもちゃ、ぬいぐるみ 他
- 交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅下車徒歩約12分
- 会場／世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101

市民活動・NPO 相談

世田谷区内で活動を始めたい方や、すでに活動している方を対象に団体、個人を問わず、グループ・団体、法人の立ち上げや運営に関する基礎的な相談・情報提供を行っています。相談をご希望の方はお問合せください。また会計、税務、契約、社会保険、雇用、法律の専門相談も行っています。(原則として事前予約制です)

- 問合せ／最寄りのセンター、および各ビューローにご連絡ください。
電話番号は裏表紙参照、専門相談はセンターにお問い合わせください。

傾聴ボランティア養成講座 @ 世田谷ボランティアセンター 参加者募集 (全5回)

個人の方と対面で継続的に行う、傾聴ボランティア活動のための講座です。話すこと・聴くことについて、体験学習を通して、グループで考え、感じながら学んでいきます。あなたも傾聴ボランティア活動への一歩を踏み出してみませんか？

●日程／2月6日、13日、20日、27日、3月6日のいずれも金曜 (全5回)

●時間／13時30分～16時30分

●会場／世田谷ボランティアセンター (下馬2-20-14)

●交通／東急田園都市線・世田谷線三軒茶屋駅下車徒歩約12分

●対象／全回参加できる方。講座修了後、傾聴ボランティア活動を始められる方

●参加費／8,000円 (初回時)

●定員／18名 ※定員になり次第締め切ります。

●申込／右記の二次元コードを読み込み、お申込みください。

●申込開始日／1月9日 (金) 11時～

●問合せ／世田谷ボランティアセンター TEL: 03-5712-5101

担当: 小畑・原口・近藤



バザー開催&ボランティア募集@玉川ボランティアビューロー

玉川ボランティアビューローでは、恒例のバザーを開催します。収益はボランティア活動推進費として大切にに使わせていただき、「おたがいさま」で結ばれた地域づくりに役立てられます。是非お越しください！

●開催日時／2月21日 (土) 10時30分～14時

●場所／玉川ボランティアビューロー ※駐車場はありません

●交通／東急田園都市線・大井町線 二子玉川駅下車 徒歩約5分

●問合せ／玉川ボランティアビューロー TEL: 03-3707-3528

また、バザー提供品およびバザーボランティアも募集中です。

○提供品受付について

日時／1月19日 (月)～1月24日 (土) 10時～17時

※玉川ボランティアビューロースタッフに直接手渡してください。

※新品または新品同様の贈答品、食器、婦人服、子ども服、バッグ、アクセサリ、靴、雑貨のご提供をお願いします。

※スーツ、電化製品、書籍など受付できないものあり。詳しくはお問い合わせください。

○ボランティアについて

①値付けボランティア

日時／1月23日 (金)、27日 (火)、29日 (木)、

2月4日 (水)、6日 (金)、12日 (木)

13時～15時 ※ただし、2月6日 (金) のみ 10時15分～12時15分

※日程は変更する場合があります。詳しくはお問い合わせください

②会場設営ボランティア

日時／2月16日 (月) 10時15分～12時30分

③バザー当日の販売・片付け等のボランティア

日時／2月21日 (土) 10時～15時

AIシステムによるマッチングサイトのお知らせ

「趣味や技術、経験を生かしたい」「地域で活動したい」という、ボランティア活動をしたい方の経験や意欲などと、サポートを求める方や団体などを、東京大学先端科学技術研究センターが開発したAIシステムによるマッチングサイト (世田谷版 G B E R 「ジーバー」) で結び付け、経験や希望に合ったボランティア活動を紹介します。

詳細は右記二次元コードからご覧ください。



上記掲載記事は12月14日時点の情報です。
変更となる場合がありますので、詳細は問合せ先へご確認ください。

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点



相談・お問い合わせ先

- ボランティアについて ▶ 【世田谷ボランティアセンター、各ボランティアビューロー】
災害ボランティアについて ▶ 【せたがや災害ボランティアセンター】
リハビリについて ▶ 【ケアセンターふらっと、ケアセンター with】
訪問介護について ▶ 【ケアステーション連】
介護プランについて ▶ 【ケア相談センター結】
障害について ▶ 【ぼーとせたがや、スペース ココカラ。】

協会職員大募集！
作業療法士 訪問介護員
支援員 相談員

寄付で社会を
ご寄付のお願い

お支払い方法が
選べます。

- ・ クレジットカード
- ・ Amazon Pay
- ・ 銀行振込

寄付金控を受けられます



ホームページ



Facebook



Instagram

本誌掲載記事の無断転載を禁じます。